

中学校第2学年英語科学習指導案

日時 平成27年10月15日(木)
指導者 教育センター所員 日吉 敬子

〈キーワード〉 ①発問構成 ②ICT利活用

1 単元名

Unit 4 Homestay in the United States (*New Horizon English Course 2*)

2 単元について

(1) 発問構成及びICT利活用と目指す生徒の姿の関連について

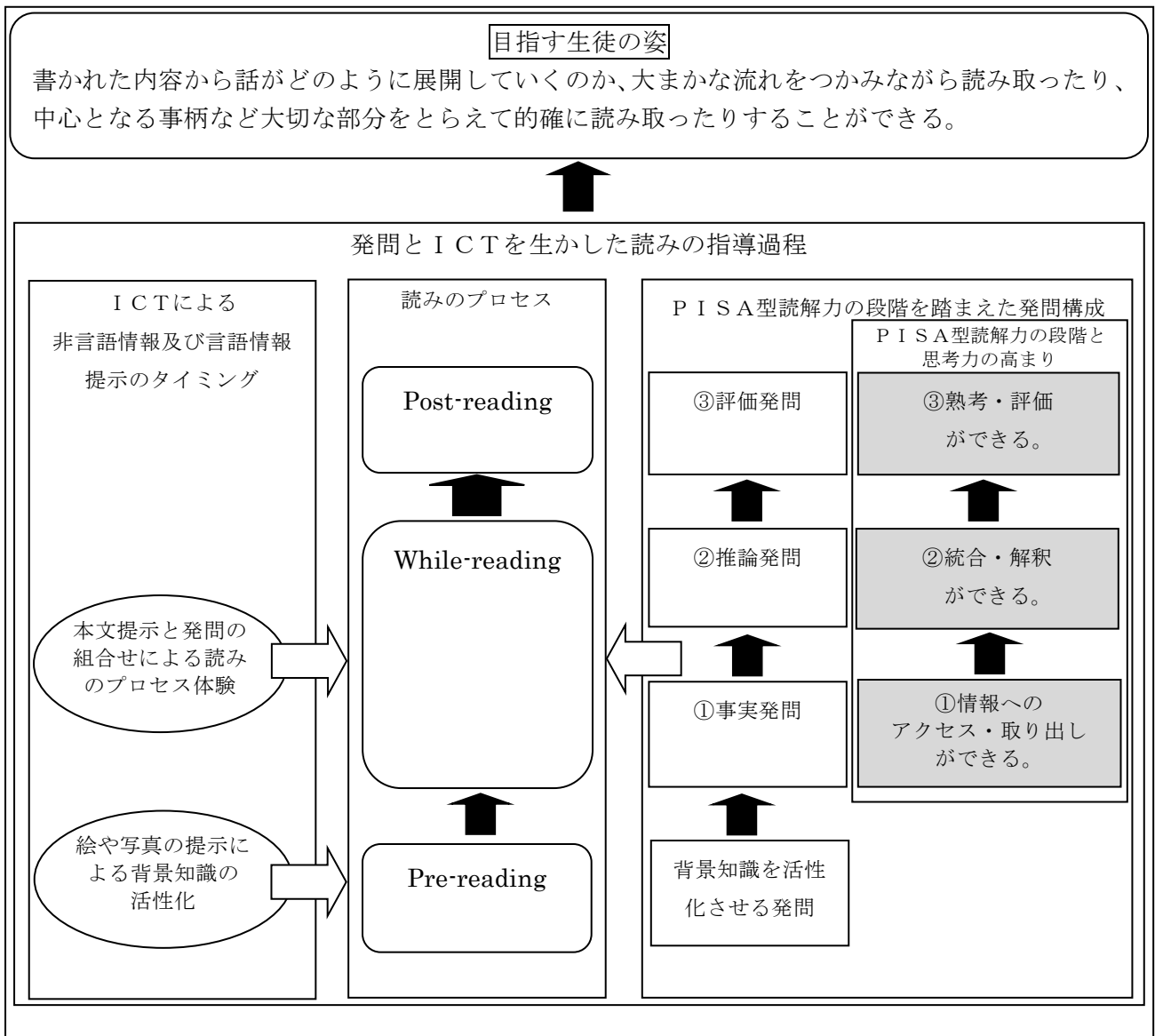


図1 目指す生徒の姿に迫る本単元の構想図

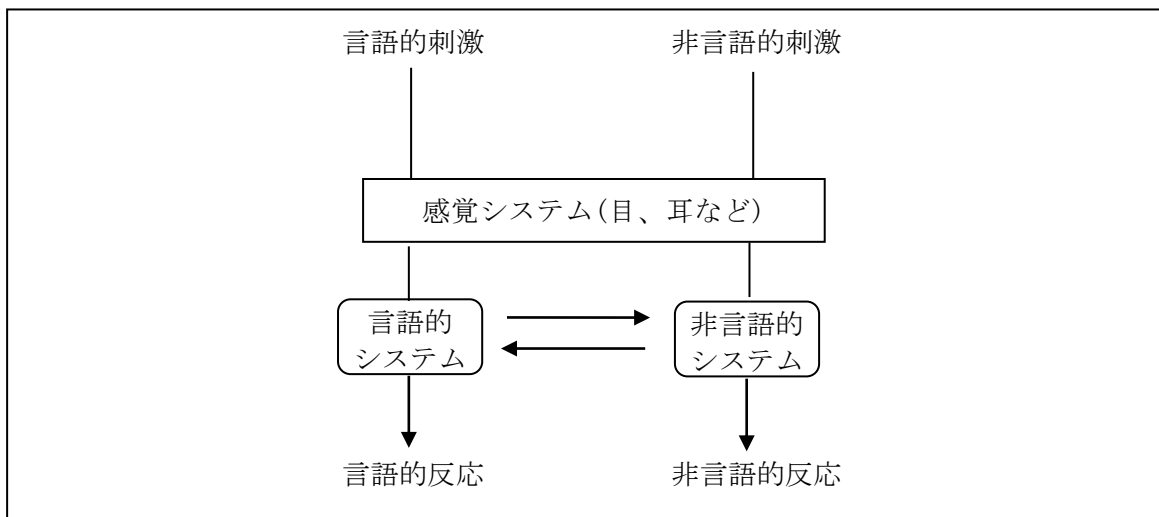


図2 二重符号化理論

本単元において、読みのプロセスをPISA型読解力で捉え直し、読むことの領域における思考力の高まりを、PISA型読解力において定義された読解力の3つの分類①「情報へのアクセス・取り出し」、②「統合・解釈」、③「熟考・評価」の各段階での理解の度合いで見えていくこととし、段階に合わせた発問構成を考えて言語活動を行う(前項図1)。このことについて学習指導要領解説を見てみると、読むことの領域(ウ)では「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」とされており、話がどのように展開していくのか、大まかな流れをつかみながら読み取ったり、特に中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ったりすることができるように指導することが求められている。以上のことから、PISA型読解力の流れを踏まえた言語活動を行うことは、読むことの領域における思考力の高まりを促すものとする(前項図1)。

次に、ICT利活用の関わりについて述べる。高梨・卯城(2011)は、挿絵や写真を活用して学習者の背景知識を活性化させ内容の予測を行うことにより、テキストからの文字情報との統合へとつなげることができるとしている。Levie and Lenz(1982)は、絵や写真には文章の内容を予測でき、英文を読みやすくする役割があるとしている。これは、二重符号化理論に基づいており、同じ内容が言語情報と非言語情報で提示されると、その情報がより理解されやすく、また記憶されやすくなるという理論である。記憶のシステムは言語を扱う言語システムと言語以外の方法を扱う非言語システムから成り立っており、それぞれのシステムは独立しているものの相互に作用しあうことが仮定されている(図2)。その効果は、絵、写真やイラストのみならず、表やグラフも理解を促進するとされており、読みの段階に応じて、それらを組み合わせて提示することで、その効果が期待できる。さらに、この効果は特に読解力の低い生徒に対して顕著であると考えられている。また、卯城(2011)は、読みながら行う発問は、次にくる情報を予測しながら読むプロセスを体験させる効果をもち、このような読み方を練習することによって、一人で読む際にも同様の読み方を行うことが期待されるとしている。このことから、本文を細分化して注目すべき英文を焦点化しながら発問を行えば、英語が苦手な生徒への負荷が軽減できるのではないかと考える。

以上のように、読みのプロセスにおいて、PISA型読解力の流れを踏まえた発問構成で言語活動を行い、背景知識を活性化させたり思考の流れを促したりするためにICTも活用していく。これらの手立てにより、「書かれた内容から話がどのように展開していくのか、大まかな流れをつかみながら読み取ったり、中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ったりすることができる」生徒の姿を目指す。

(2) 教材観

本単元では、ホームステイが話題として取り上げられている。ホームステイ先での約束事やホームステイに関して寄せられた相談やそれらに対するアドバイスを通して、アメリカの日常生活を知ることができる内容となっている。こうした異文化についての話題に触れることで、自国の文化にも目を向けることができる題材となっている。言語材料としては、助動詞 will、must 及び代用表現 have to を取り扱う。これらは、意志、義務、推測などをする際に使われ、日常会話に頻繁に出現する表現であり、これらを身に付けることで、より豊かな表現活動につながることを期待される。

(3) 生徒観

生徒の実態と、実態に合わせた手立てに関する記載

(4) 指導観

本単元ゴールを「ホームステイに行く前に分かっておきたい5つのこと」を英文で書かせることとする。この単元ゴールに迫るまでの指導過程において、上記課題の解決を図るために次の点に留意したい。手立てが必要なのは、主に①基本文や本文中の言語材料を使う場面、②本文内容を適切に読み取る場面だと考えられる。これらについては特に指導を工夫する必要があるので、①基本文や本文の言語材料に慣れることができるような言語活動を仕組んだり、②読みのプロセスに応じた発問構成とICT利活用を考えたりしたい。

3 単元の目標

- (1) 日米の文化の違いを考えながら、本文を読み返す。
- (2) ホームステイで気を付けるべきことを、have to を用いてガイドブックとしてまとめる。
- (3) 日米の文化の違いやホームステイで大切なことは何かを読み取る。
- (4) have to、will、must の形・意味・用法を理解する。

4 単元の評価規準

観点	ア：コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ：外国語表現の能力	ウ：外国語理解の能力	エ：言語や文化についての知識・理解
単元の評価規準	・日米の文化の違いに関心をもちながら、本文を読み返している。	・ホームステイで気を付けるべきことを、have to を用いてガイドブックとしてまとめることができる。	・本文を読んで、大切な部分を読み取ることができる。	・have to、will、must の形・意味・用法を理解している。

5 単元の展開(全8時間)

時間	○ねらい・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		
	○have to を用いた文の構造を理解する。 ・ have to を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、have to の使い方を理解する。 ・教科書本文から、義務を表す時に使われる表現を探す。	エ	後日ペーパーテスト
2	○Starting Out の内容を読み取る。 ・アメリカでのホームステイで気を付けるべきことを読み取る。 ・単語、連語等の意味や発音を確認する。 ・音読練習する。	ウ	ワークシート
3	○will を用いた文の構造を理解する。 ・ will を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、will の使い方を理解する。 ・教科書本文から、意志を表す時に使われる表現を探す。	エ	後日ペーパーテスト
4	○Dialogue の内容を読み取る。 ・サクラが何を勘違いしたのかを読み取る。 ・単語、連語等の意味や発音を確認する。 ・音読練習する。	ウ	ワークシート
本時			
5	○must を用いた文の構造を理解する。 ・ must を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、must の使い方を理解する。 ・教科書本文から、義務を表す時に使われる表現を探す。	エ	後日ペーパーテスト
6	○Reading for Communication の内容を読み取る。 ・相談・助言の形の英文を読み、内容理解ができる。 ・自分の意志を相手に率直かつ丁寧に伝えることの大切さを知る。	ア	活動の観察
7	○Reading for Communication の内容を読み取る。 ・相談・助言の形の英文を読み、内容理解ができる。 ・ホストファミリーの一員であることとはどういうことかを知り、問題解決の糸口を知ることができる。	ア	活動の観察
8	○「ホームステイに行く前に分かっておきたい5つのこと」を英文でまとめる。 ・アメリカと日本の生活習慣を対比させながら表現することができる。	イ	ワークシート

6 参観の視点

【視点1】

挿絵や写真などの情報を部分的に提示しながら発問することは、学習者の背景知識を活性化させ、テキストからの文字情報との統合へとつなげることができたか。

【視点2】

読みながら行う発問は、次にくる情報を予測しながら読むプロセスを体験させる効果があったか。また、本文を細分化したことは、英語が苦手な生徒にとって負荷の軽減となったか。

7 本時の学習指導（4 / 8）

(1) 本時の目標

- ・本文を読んで、大切な部分を読み取ることができる。（外国語理解の能力 ウ）

(2) 本時の学習指導過程

段階	学習活動	教師の働きかけ(○) 評価(◎) ICT機器使用(◆)	
		J T E	【参観の視点】
導入	1 あいさつ 2 帯活動 ・ 歌 歌を歌う。	○授業に臨む雰囲気をつくる。	
展開	本時の目標：「サクラの？」を読み取ろう		
	3 前時の復習 カードを見て、時間内に英文を口頭で言う。 4 Oral Introduction スライドを見ながら教師の質問に答える。 5 新出単語練習 新出単語を発音したり、口頭で英文を作ったりする。 6 本文内容理解 教師の発問に答える。	○習熟状況に合わせた声掛けを行う。 ◆電子黒板を用いて、部分的に見せながら質問をする。 ○単語から口頭で英文をつくるよう発話を促す。 ◆電子黒板を用いて、本文を細分化して見せながら発問する。	【視点1】 挿絵や写真などの情報を部分的に提示しながら発問することは、学習者の背景知識を活性化させ、テキストからの文字情報との統合へとつなげることができたか。 【視点2】 読みながら行う発問は、次にくる情報を予測しながら読むプロセスを体験させる効果があったか。また、本文を細分化したことは、英語が苦手な生徒にとって負荷の軽減となったか。
	◎ サクラが何を勘違いしたのかを読み取らせるためにループリックを示す。 (ウーワークシート)		
	A	B	C
	「サクラの？（疑問）」を読み取り、本文に続くホストマザーの行動を答えることができる。	「サクラの？（疑問）」を読み取ることができる。	「サクラの？（疑問）」を読み取ることができない。

段階	学習活動	教師の働きかけ(○) 評価(◎) ICT機器使用(◆)	
		J T E	【参観の視点】
展開	7 音読練習 教師の範読に続けて読む。	○注意すべき発音や理解した内容を確認しながら音読練習をさせる。	
まとめ	8 まとめ (1) 今日の授業を振り返る。 (2) 家庭学習の課題内容を知る。 9 次時の学習内容を知る。	○本時の目標の達成度についてルーブリックを用いて自己評価させる。 ○これまでの学習内容と家庭学習課題内容のつながりについて説明をする。 ○家庭学習課題内容を確認させて、次時の学習内容の見通しをもたせる。	

(3) ワークシート回収後の評価

- ・ 形成的評価として行い、総括的評価は後日ペーパーテストを通して行う。(ウーワークシート)。

サクラが何を勘違いしたのかを読み取ることができる。	
Aと判断する具体的状況	「サクラの?(疑問)」を読み取り、本文に続くホストマザーの行動を答えることができる。
Bと判断する具体的状況	「サクラの?(疑問)」を読み取ることができる。
Cと判断する具体的状況	「サクラの?(疑問)」を読み取ることができない。
Cへの取るべき手立て	つまずきの原因を次時まで個別に確認する。また、生徒の多くが読み取れていない場合は、次時に全体で補足説明をする。以上のことを踏まえて次時の指導に反映させる。

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 外国語)』平成23年
- ・ 卯城 祐司 『英語で英語を読む授業』2011年 研究社
- ・ 田中 武夫編著 『推論発問を取入れた英語リーディング指導』2011年 三省堂
- ・ 北原 延晃 『英語授業の「幹」をつくる本』2014年 株式会社ベネッセコーポレーション